

第61期生の皆様へ

今年の夏は、昨年以上の酷暑厳しく、米子方面では連日熱中症警戒アラートが発令されています。

同期生の皆様には、身体の芯から堪えるこの暑さを何とかと工夫しながら乗り越えておられることと拝察いたします。

我々第61期生は、昭和37年の春に約440名の学生として入学し、3年間の思い出深き高校生生活を経て、東京オリンピック後の昭和40年の春に卒業いたしました。

3年のクラス担任は、倉光 純、三島寿雄、深田訓正、吉田敏明、大谷 懋、永光 昭、山本秀哉、山口洋三の諸先生方8名で、様々なご指導を受け卒業いたしました。

60年を経た現在、深田訓正先生と山本秀哉先生のお二人となり寂しい限りです。

私たちの期は卒業後14年目に、森林政宏氏と入澤睦美氏が世話役となって、昭和54年8月14日、旧国際ホテル（現在のファミリーナダKKビル）にて、第1回の61期同期生会を開始し、以来2～5年おきに開催しながら、クラス幹事等を組織（後年、同窓会役員等を加え61期合同幹事団に改組）し、次期開催時の協議や同期生の逝去に対し、蓄えた余剰金から、生花、香典、弔電を贈るなどして哀悼の意を表してきたところです。

今年の5月16日（金）午後5時から、ワシントンホテルプラザにて、70名の参加を得て盛大に同期生会を開催することができました。

しかしながら、逝去者が2割を越え、同期生会を開催しても体調不良等により参加がままならない方が増えてきたことから、参加者に諮り、令和7年度内に61期生の大半が傘寿（数え年を含め80歳）を迎えることを機に、61期合同幹事団を解散することとなりました。併せて、これまで続けてきた弔意行為はやめ、解散に伴う合同幹事団の銀行口座解約金（¥141,642円）を、在校生の活動に活用するとの総意により、令和7年8月27日午後4時半、鳥取県立米子東高等学校校長室にて野間佳浩校長に寄付いたしました。

同期生の皆様には、長い間、同期生会開催、運営等にご支援ご協力を賜りましたこと、厚く々お礼申し上げますとともに、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

今後の同期生の集まりは、有志による会合が主体となりますことをご了承ください。

令和7年8月27日

勝田ヶ丘同窓会 第61期生 鹿島一郎、星野章作